郡上八幡における町並みを構成する ファサードの特徴と変化

5220D002-9 家田雅之

常に変化をしている町並みの生成メカニズムを把握する際には、ファサードを人々の生活の表れと捉え、その変化の要因を追及することで町並みの生成メカニズムを紐解くことに繋がると考えられる。本研究では水と踊りの町として知られる郡上八幡を対象として建物タイプの特定と変化のパターンを特定した。加えて、看板などの付属物や鉢植えなどのしつらえといった、ファサードのタイプの変化には至らない細かな付属物の変化とその特徴を明らかにした。その結果、中心市街地の店舗において別種の店舗へと改修される変化はすべて 2010 年から 2020 年の間に起きており、観光化の進展に影響されたものであると捉えることができた。また、ファサードタイプに至らない変化においては類型化により 5 つの変化の特徴が得られた。

Key Words: 町並み、ファサード、郡上八幡、町家、商店街

はじめに

1.1 本研究の背景と目的

町並みは常に変化している. 時間とともに住み手 の意識が建物に染み出し、連なってゆくことでその 町らしさを形成してゆく. その際, その町並みの変 化は個々の建物の変化の街路に面した可視部分, す なわちファサードの変化によって把握できる. 個々 の建物およびファサードの変化は、生業、居住形態 など住み手, 利用者の暮らしの上での事情や意向に よって起こる 1). つまり, ファサードの変化をもた らす要因を追っていくことにより、その町の人々の 生活の変遷を反映した町並みの生成メカニズムを紐 解くことに繋がると捉えることができる. その生成 メカニズムは条例や町並み保全への意識によるとこ ろもあるが、それ以外の生業やライフスタイル、産 業や人口動態などの景観形成基準のコントロールの 及ばない力の影響が強い. したがって町や人々の生 活を維持、継承していくという観点から町並みを考 える際には景観の整序という観点からではなく,フ ァサードを住民の生活の様子が表れと捉え, 動的な メカニズムとして考えていく必要がある.

本研究では、早稲田大学佐々木葉研究室が永らく研究フィールドとしてきた岐阜県郡上市八幡町の中心市街地を対象として、ほぼ 10 年ごと 3 時点において調査した約 600 件の建物の写真記録を用いて、

ファサードタイプの変化と変化の特徴を明らかにすることを第一の目的とする.また,看板などの付属物や鉢植えなどのしつらえといった,ファサードのタイプの変化には至らない細かな付属物の変化にも着目することにより,町並みの詳細な生成メカニズムを明らかにすることを第二の目的とする.

1.2 既存研究の整理と本研究の位置づけ

本研究に関係する研究として、建物のファサード 変化に関する研究および郡上八幡のまちづくりに関 する研究が挙げられる.

建物のファサード変化に関する研究では特定の要素に着目し類型化を行う研究が多くみられる. 村西ら²⁾は岐阜県飛騨市古川町の新町家に着目し、ファサードの類型化、分析を行い、年代による肘木の特徴を明らかにした. 渡辺ら³⁾は奈良県奈良町を対象として、現地調査及び明治時代の銅版画などからファサードを構成する意匠構成要素の出現度合いやその構造を明らかにした. また、内海ら⁴⁾はヴェトナムのホイアンの町並みを対象に、歴史的な町家構造の建物の維持を目的として、住民や行政などによるファサードそのものに対する変更の様子をより具体的に検証し、修復・新築の際の問題点を明らかにした.

郡上八幡を対象とした研究としては、建物とまちづくりの関係に着目した研究が多くみられる. 猪股ら がは郡上八幡の新規出店者の属性や出店までの経

緯を把握し、物件の取得方法や経営上の工夫などの 実態を明らかにした. また,石田 のは文献調査や現地 調査によってまちに見られる社寺や祠,地蔵尊,橋,番 所跡などの立地と経緯.現状を調査してまちづくり との関係性を把握し、さらに郡上踊りの開催経緯と 街との関係を考察した.

そして、郡上八幡の建物のファサードの変化に着 目した研究として、 Teh^{7} の研究が挙げられる. Teh は 1999 年から 2010 年にかけての郡上八幡の建物のフ アサードと土地利用の変化を現地調査及び住民への アンケート調査によって明らかにした.

本研究は実際の建物の写真データを参照しファサ ードの分析を行う点に特徴がある. また、Teh が行 った 2 時点でのファサードの比較に加え, 2020年の 建物写真を追加した3時点でのファサードの変化を 分析する点に特徴があるといえる.また,14地区600 件(後述)という郡上八幡の主要エリアの全域を対 象としていることも本研究の特徴である.

1.3 研究の方法

本研究では、2020時点の状況を把握するために現 地調査を行い、建物のメンテナンス状態、看板など の附属物の有無を記録する. そしてその記録をもと に3時点の建物写真を比較し、建物のファサードタ イプの特定及び変化パターンの特定を行う、その後、 ファサードタイプの変化には至らないが建物ごとに 生じる小さな変化の類型化及び分析を行う. 以上よ り郡上八幡の包括的な町並みの変遷及び生成メカニ ズムを明らかにする.

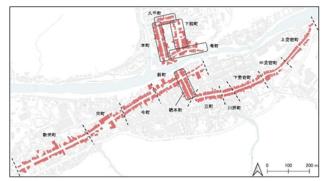
2. 調査の概要

2.1 対象地の概要

対象地は岐阜県郡上市八幡町の中心市街地、通称 郡上八幡である、八幡町の人口は12,910人、世帯数 5,434(令和3年8月1日現在,郡上市住民基本台帳)で あるが、近年人口は減少傾向で空き家も増加にあり 8)9), 中心市街地には平成25年時点で空き家が約353 件あるとみられている¹⁰⁾. 豊富な水資源を活用した 水利用施設11)12), 重要無形民俗文化財の郡上踊り、 さらには2012年に指定された重要伝統的建造物群保 存地区といった特筆すべき資源がある. これらは、 城下町の空間構造を継承しつつ、地域資源を活かす ための総合的なまちづくりが約40年間にわたって継 続された成果12)でもあり、通年の観光客や移住者の 増加もみられる. しかしながら増加する空き家に対 しては、その利活用の取り組みがあるものの10)も建 物の取り壊しは散見される.

2.2 対象エリアの概要

本研究では郡上八幡において伝建地区に指定され たエリアを除いた, 商店の割合が比較的多いメイン ストリートとして考えられる新栄町, 栄町, 今町, 新町, 橋本町, 立町, 川原町, 下愛宕町, 中愛宕町, 上愛宕町, 本町, 下殿町, 肴町, 大手町の14の地区 の通りに面した建物のファサードを調査対象とする (図−1).



調査対象エリア

	表-1	3時点でのファサード調査の概要	5
実施期間	1999年7月27日-7月30日	2010年10月31日-11月3日	2020年9月10日-9月11日
調査件数	596件	611件	614件
調査項目	 ・規模(間口、階数) ・用途 ・全体の印象(伝統的)、現代的、保存状態、景観への配慮) ・全体の色調 ・建物構成要素の状況(屋根、庇、袖壁、外壁、窓、入口、内部の見通し) ・附属物(看板、ディスプレイ、その他) 	・用途 ・変化の分類 ・変化箇所 ・変化後の素材 ・メンテナンスの状態 ・生活・活動の程度	・建物タイプ ・変化の概要 ・用途変化 (住宅、店、空き地) ・現在の用途 (店舗の場合) ・附属物 (看板、サイン、オーニング、その他) ・メンテナンス状態
例	39 128		

2.3 調査方法

図-1 に示した通りに面した建物のファサードの 写真撮影を 2020 年 9 月に行った. なお過去 2 時点 の調査に関しては 1999 年 7 月に日本福祉大学・佐々 木葉研究室が, 2010 年 11 月に早稲田大学・佐々木 葉研究室が行った.

各年次では写真撮影と共に建物およびファサードの特徴、付属物やしつらえ、維持管理状態などの多くの項目についての調査を行なっているが(表-1)、調査項目が多くまた一部変更していることもあるため、本報告では記録された写真データを用いて、それぞれのタイプ分類とその変化の内容把握を行うこととした.

なお,本研究では 2020 年時点で対象エリアに 614 件ある建物のうち,3 時点の写真からデータが得ら れる 602 件に対して分析を行った.

3. ファサードのタイプ分類

郡上八幡の基本的なビルティングタイプは木造真 壁造りの町屋である.間口が狭く奥行きが長い敷地 に対して、壁面線を街路との境界部に揃え、2階建を 基本として切り妻屋根の平入とする.そのため2階の 軒と1階の庇がファサードを水平方向に2分節する.

屋根および庇の素材は金属板で瓦は稀である。町 屋の1階部は店舗を基本とするため開口が大きく,引 き戸によるほぼ全面が開口となる.2階には横長の窓 があり、格子や高欄が配されるものが多い、こうし た町屋の基本的な特徴を踏襲しつつ、開口部建具を 木質以外とする、1階開口部を小さくする、壁面等を 構成する素材を木質以外とする, 看板建築状に壁を 立ち上げる, といったバリエーションがある. その 際にも壁面線の位置と1,2階の高さと分節において 基本型の町屋を踏襲しているものが多く, 町並みの 基本構成を維持している. これら町屋をベースとし たバリエーションとみなせる建物以外には,壁面位 置や高さなど規模において町屋と大きく特徴が異な るものなどがあるが、その中にも町屋や真壁作りに 見られる意匠に配慮しているものもある. 以上の着 眼点をもとに、郡上八幡のまちなみを構成するファ サードのタイプを表-2に示す10分類とした.

表-2 3時点でのファサード調査の概要

コード	名称	特徴	例
0	空地	空地 駐車場など.	
1	木質系の町家	1, 2階とも壁面や建具等 の主たる材質が木質系の 町家	
2	木質系の町家 1階開口非木質	木質系の町屋で 1 階網口 が非木質系建具	
3	木質系の町家 開口小	木質系の町屋で1階の開口が小さく、非木質系	
4	非木質系の町家	1. 2階とも壁面や建具等 の主たる材質が非木質の 町家	

[コード	名称	特徴	例
	5	非木質系の町家開口小	1, 2階とも壁面や建具等 の主たる材質が非木質の 町屋で、開口部が小さい	
	6	看板型の町家	看板建築のように非木質 系材質で壁面を立ちあ げ、水平方向の分節が見 られる町屋型建物。	
	7	看板型の町家 開口小	看板建築のように非木質 系材質で壁面を立ちあ げ、水平方向の分節が見 られる町屋型建物。開口 部が小さい。	9" 7 12
	8	非町屋の現代的建物伝統的意匠あり	高さや材質が町屋と大きく異なる非町屋の現代建物だが、壁面セットバックなし、水平方向の分節や伝統が愈匠など町屋との共通点が見られる。	
	9	非町屋の現代的建物	壁面がセットバックして いる。または、閉口が小 さい・水平方向の分節や 伝統的意匠のない現代的 な建物。	

4. ファサードタイプの変化

4.1 ファサードタイプの変化の実態とパターン

現地調査によって得られた建物写真データより, まず,各時点の建物のファサードタイプを,表-2の 10分類に特定し,時点間での変化を把握した.

605 件のうち、タイプに変化がないものが 487 件 (80.9%), 前半の 1999-2010 年の間に変化があったものが 61 件(9.8%), 後半の 2010-2020 年の間に変化があったものが 53 件(8.6%), 3 時点いずれも変化していたものが 4 件(0.7%)となった. このようにほとんどのファサードのタイプには変化がみられないが、同じタイプに分類されていても、素材の更新や塗装、看板などの変化、維持管理の状況によって個々には変化がみられ、これは次章で扱う.

ファサードタイプが変化したものを対象として、変化前後の建物用途(住居,店舗)と変化の内容(取り壊し、改修、建て替え)の組み合わせを基本とし、変化後のファサードの特徴がビルディングタイプとしての町屋に近づくか、現代的な特徴が大きくなるかに着目して表-3に示したパターンを設定した.

倉庫など店舗・住居以外の用途のものなどでその他と分類した13件をのぞいた計105件の変化についてみると、住居および店舗が取り壊されて空地になっているものが26件(24.7%)、住居から住居への変化が35件(33.3%)、店舗から店舗への変化が22件(21.0%)となり、全体的に住居にシフトしている。なお住居から店舗への変化は見られなかった。店舗から店舗への変化においては、営業を続けるための改善とみられ

るものと、店舗の内容が大きく変化したものがあり、 後者の場合はすべてが伝統的な町屋の意匠に近いファサードへと変化していた。住居へと変化するもの は全体的に開口部の減少、引き戸のドア化など密閉 性を高める方向に変化し、駐車スペースをとるため にセットバックするものも見られる。

これらの変化は現代的な居住環境を求めた結果であると考えられるが、町屋の基本構成から離れ、町並みとしての継承性は低減する. 5 件と数は少ないが、より伝統的な意匠、素材へと改修している例が、重伝建地区以外の調査対象範囲でも見られた.

4.2 ファサードの変化パターンの空間的分布

次にファサードタイプに変化がみられたケースの 立地を見るため、変化のパターンごとの位置をマッ ピングした(\mathbf{Z} -2). なお, \mathbf{Z} -2 の凡例は表-3 のコー ドを表すものとする.地区ごとに特徴を見ていくと, 中心的な商店街から離れた場所である, 東部の上・ 中・下愛宕町と西部の新栄町には、住宅の改修・改 築,建て替えが多くみられる。中心的な商店街であ る立町,橋本町,今町では店舗を閉じて住居へ変化 するものと, 店舗の改修によって営業継続または別 種の店舗への変化するものが混在している. このう ち後者の変化は、2010年から2020年の間に起きて いることから、観光化の進展に対応したものと考え られる. 特に「キ」に分類される店舗の業種を変更 して伝統的なファサードに改修されているものは、 新町、今町、肴町および伝建地区に隣接する箇所に 見られた. これに対して店舗内容を変更および継承 しつつ改修によって営業を継続するパターン「カ」

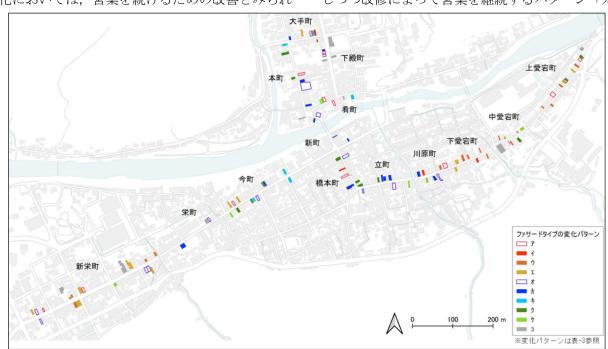


図-2 ファサードタイプの変化パターンの分布

表-3 ファサードタイプの変化パターン

⊐-l²	変化前の 用途	変化	変化後の 用途	変化後の ファサード	説明	例 変化前の写真	変化後の写真	件数
7	71186	取り壊し	/		空き地・駐車場など	X IOHO-FA		13
1		改修・改築	住居	伝統的	壁面や建具等の主たる材質が木質系			5
ņ	住居			現代的	壁面や建具等の主たる材質が非木質系で構成され、開口面積が減少.			16
т		建て替え	住居	現代的	セットバック. 壁面や建具等の主たる材質が非木質系 で構成され、開口面積が減少.			14
*		取り壊し			空き地・駐車場など	# * # # # # # # # # # # # # # # # # # #		13
ħ		改修・改築	店舗	継承	業種の継承、材質の長寿命化 色彩が 町並みと調和1	(23333 A G G G	A STORY	15
+	店舗			転換	業種の変更、伝統を意識した大幅な 改修			7
þ			住居	現代的	壁面や建具等の主たる材質が非木質系で構成され、開口面積が減少.	917-225		12
7		建で替え	住居	現代的	セットバック. 壁面や建具等の主たる材質が非木質系 で構成され、開口面積が減少.			10
=							13 118	

は、中心的商店街全体に分布している。また取り壊しはほぼ全域に見られ、新町に見られない以外、大きな偏りはない。郡上八幡において最も中心的な新町においては、ファサードタイプの変化の件数は少ないが、実際には大型な町屋のリノベーションによる空き家の利活用や新規店舗が誕生している。以上のようなファサードタイプの変化の空間的な分布には、各地区の履歴と観光客の来訪による顧客の変化、伝建地区指定の影響といったまちの活動状況と対応した傾向が見られた。

5. ファサードタイプに至らない変化

5.1 着目する変化

前章では建物のファサードタイプの変化に着目したが、本章では壁面の素材や建具の更新、塗装や看板などの変化、メンテナンス状況や付属物の変化など、ファサードタイプの変化までは至らないが建物ごとに生じる小さな変化に着目する。1999年から2010年及び2010年から2020年の3時点においてファサードタイプの変化しなかった484件の建物を対象として、以下の表-4に示すような5つの項目に着目し分析を行った。なお、これらの変化は独立して起こるものではないため、重複して変化が見られるケースも存在する.

5.2 変化の類型化(1999年-2020年)

ファサードタイプの変化しなかった 484 件のうち, 上記の5項目のいずれにも当てはまらないような, 全く変化の見られなかった建物は 1999 年から 2010 年にかけては 265 件, 2010 年から 2020 年では 271 件存在した. 本研究では街並みの変化に着目するため上記に該当する建物を除き,変化の見られた 219 件,213 件に対してクラスター分析(Ward 法を採用) を行うことで変化の類型化を試みた. その結果,次項の表-5に示すような5つの類型を得た.

a) 用途·付属物変化型

この類型は店舗の閉店に伴う看板やオーニングの 撤去など建物の用途と付属物の変化が同時にみられ るタイプである. 閉店後に空き家になるというケー スが多く,看板やオーニングなどの店を印象付ける 付属物は撤去されるものの,建物本体の改修やメン テナンスなどは行われていない.

b) 用途·建物本体変化型

この類型は看板などの付属物の撤去のみでなく壁面や屋根,底の改修や補修という建物本体の変化があり,用途の変化もみられるタイプである.変化後の用途は住居または別種の店舗として営業しているものがほとんどであり,機能・用途が変更された際に付随して建物本体の改修・改築も行われたと考えられる.

c) メンテナンス変化型

この類型は建物本体や付属物の変化はあまり見られず、メンテナンスによる変化があるタイプである. 具体的には屋根や庇などの塗り直しが多く、その際に周囲の景観に配慮するような黒や茶系統の色彩が使用されているという傾向が見られた.

d) しつらえ変化型

この類型では付属物や建物本体には変化がなく, 鉢植えなどに変化が見られたタイプである.しつら えが増えた変化には壁面や建具などのメンテナンス や維持が施され,反対にしつらえが減った変化に は,室外機や表札といった付属物なども同時に減少 しており,空き家と思われる建物もみられた.

e) 建物本体変化型

この類型では住居か店舗かの用途に依らず,壁面 や庇,建具などの建物本体の老朽化に伴う改修がみ られるタイプである.

住居に関しては住環境の向上のための改修,空き 家の改修が見られ,店舗に関しては業種に変化はな く,老朽化や痛みが激しい個所を部分的に改修する ような変化が見られた.

15 D	= 4.00	変化の程度	件数(変化の見	件数(変化の見られたもの)	
項目	説明		1999年-2010年	2010年-2020年	合計
田冷 機能の変化	店舗から住宅への変化や店舗から別種の店舗への変化など、	0…変化なし			
用途,機能の変化	建物の用途や機能の変化	1…変化あり	52	58	110
		0…変化なし			
建物本体の変化	屋根や庇,建具,外壁などの建物本体に見られる変化	1…部分的に変化あり	49	33	82
		2…複数個所に変化あり	24	20	44
	建物本体の素材形態には変化のないような塗り直し, 傷んだ箇所の修復、汚れ落としなどの変化	0…変化なし			
メンテナンスによる変化		1…部分的に変化あり	26	48	74
	湯んた国州の珍俊、万化冶としなどの変化	2…全体的に変化あり	18	22	40
		0…変化なし			
付属物の変化	オーニング,看板,室外機など,建物に付属しているものの変化	1…部分的に変化あり	114	92	206
		2複数個所に変化あり	45	2010年-2020年 58 33 20 20 48 22 92 47	92
しつらえの変化	植栽やベンチ、郡上八幡の街並みにみられる水舟など、	0…変化なし			
しつらんの変化	建物から独立しているものの変化	1…変化あり	32	30	62
		合計	360	350	710

表-4 クラスター分析に使用した項目の概要

5.3 類型と地区およびファサードの特性

分析によって得られた類型の立地傾向をみるためにマッピングを行った.ここでは5つの類型のうち建物本体の改修がみられたb)とe)について述べる.この2つの変化について1999年から2010年に起きたものを図-3に示し、これに2010年から2020年の変化を加えた全期間のものを図-4に示す.これらの図から比較的中小規模の建物が多く変化していること、また1999年から2010年にかけては街の中心部の変化はあまり見られないのに対し、近年にかけて多く変化が見られたことの2点がみられた.

郡上八幡の基本的なビルティングタイプは木造真 壁造りの町屋であり、伝統的建造物群保存地区以外 にも街並み協定によってそのような建物を維持する ようなまちづくりが進められてきたことから基本的 に建物を維持するような改修が行われてきたと考え られる.

また、中心部の改修が近年進んだことについては、近年の観光地化が関係していると思われる. 先述の通り歴史的な街並みを有する郡上八幡は観光地としても知られ、毎年多くの観光客が訪れている. そのため、図-4の青枠で示した商店街は地元市民だけではなく多くの観光客が訪れる場所となっており、店舗の新規出店の際などに建物の改修を行ったと考えられる.

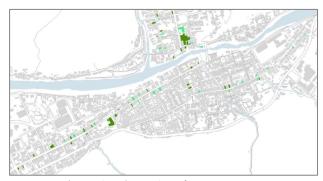


図-3 類型 b) と類型 e) の変化 (1999-2010)

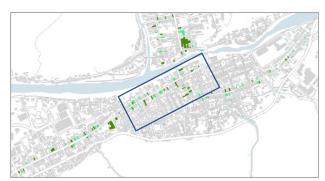


図-4 類型 b) と類型 e) の変化 (1999-2020)

6. 結論

6.1 本研究のまとめ

本研究では岐阜県郡上市八幡町の街並みを対象として,ファサードの生成と変化のメカニズムに迫り,以下の成果を得た.



注:表中の帯は当該変化総数に占める各類型に含まれる件数の比率を示す

- ・郡上八幡の建物のファサードを 10 タイプに分類 した. そこから, 町屋の基本的な特徴を踏襲しつ つ開口部や素材を変化させたものなど複数のバリ エーションが存在することが明らかとなった.
- ・ファサードタイプの変化についても 10 パターン に分類することにより時間による街並みの変化の 実態を明らかにした. また, その結果をマッピン グすることにより地域ごとの変化の特性を明らか にした.
- ・ファサードタイプの変化していない建物に対して 類型化を行った結果,5つの類型を得ることがで きた.そこから郡上八幡の建物における細かい要 素の変化の特徴と地区の関係性を明らかにした.

6.2 今後の展望

本研究では郡上八幡の伝統的建造物群保存地区に 指定されていない地区の建物のファサードを対象と して現地調査と写真分析を行うことにより、ファサ ードタイプの特定と変化の特性を明らかにした. 現 在進行中の同じ郡上八幡内の伝建地区との比較によって生きた街並みの形成について議論が展開できる と考えられる. 今回行った街並み悉皆調査を今後も 継続して行うことで、より詳細な街並みの生成と変 化に関するメカニズムが明らかになると考えられる.

<参考文献>

- 1) 佐々木葉,井下田渉:地方都市における個別建物更新のメカニズムと景観まちづくり -個々の住民の暮らしの総体的方向性のマネジメントと町並の位置づけ-,第45回土木計画学研究発表会・講演集,No.45,(65),2012
- 2) 村西 真一, 岡崎 篤行, 小柳 健: 伝統的様式を継承 した現代の町家におけるファサードの発展過程一飛 騨古川の「新町家」に着目して-, 75 巻 650 号 p. 883-888,2010
- 3) 渡辺俊,葛城桂子: 奈良町における町並み景観保全の ための町家の意匠構成要素に基づく造詣ライブラリ ーに関する研究,日本建築学会論文集,第 562 号,329-335,2002
- 4) 内海佐和子,林良彦,友田博通,福川裕一,篠崎正彦,増田千次郎:史跡保存地区における町家のファサードの変化―ヴェトナム・ホイアンの町並み保存に関する研究その2―,日本建築学会論文集,第542号,pp129-135,2001
- 5) 猪股誠野,佐々木葉:郡上八幡における新規出店者の 実態把握に関する調査研究―地域特性を反映した経 営上の工夫に着目して―,景観デザイン研究講演集 No.11,pp.256-262,2015

6) 石田勝美:郡上八幡におけるまちづくりと郡上踊り についての調査研究,37巻,pp.55-61,2012

- 7) The Yee Sing: A Study Of Building Change Pattern in Traditional Japanese Town, Gujo Hachiman,2012, 早稲田大学,修士論文
- 8) 郡上市:郡上市八幡都市計画マスタープラン(第 2 期),2016,2021 改
- 9) 郡上市:郡上市空家等対策計画(案),2017
- 10) 猪股誠野,武藤隆晴:郡上八幡における先進的空き 家対策の取り組みとその課題,景観・デザイン研究 講演集,No.13,pp.451-454,2017
- 11) 猪股誠野,佐々木葉:郡上八幡における水利用施設 管理実態にみられる多様性と主体性について,土木 計画学研究発表会・講演集,No.55, 2017
- 12) NPO 郡上八幡水の学校: 水のまち郡上八幡—水のめ ぐみを活かす知恵、2016
- 13) 郡上市:郡上八幡市街地まちなみづくり町民協定, 中央区域東部区域・南部区域・北部区域 2002 年以 降制定,順次改訂

<外部発記録>

家田雅之・佐々木葉・秌塲星澄:郡上八幡における町並みを構成するファサードの特徴と変化,第 17 回景観・デザイン研究発表会,2021.12.12,発表